

東葛支部会報

第23号

千葉工業同窓会東葛支部

2012年5月1日



表紙写真は春爛漫の京都・醍醐寺の桜です。
34M卒 宗像敬司さんの撮影です。

同窓会

同窓会とは、同じ学校の卒業者によって構成され、相互の連絡交流や親睦、母校への援助及び研修等の機能とする団体と書かれている。

千葉工業同窓会は、本部組織の下に9支部があり、各支部がその地域にあった行事を計画し、会員諸兄の協力によって盛り上がった活動を行っています。

これは従来、財団法人「千工会」から各支部に助成金の支給があったことが、活発な行

事運営が出来た要因の一つでした。

この千工会が平成24年4月1日に一般財団法人「千工会」に変更され、今後助成金の支給がなくなる可能性が出てきました。これは各支部にとって大きな問題となってきました。また、新入会員が少なく、高齢者の退会が進む現状の中で、昭和40年代卒業の諸氏が定年を迎え、第二の人生を有意義に送るための一助となる、魅力ある同窓会組織の確立をしなければならぬと感じる昨今です。

第23号 支部会報発行に当り

14代校長長峯清秀先生、現校長松本透先生には、ご多忙中の中、ご寄稿を賜りました事、感謝申し上げます。

東葛支部 支部長 吉田 勝彦

～ 野鳥を求めて〇千里～

私事で恐縮ですが、定年をまじかに控えた平成9年「定年後の過ごし方」の講座に参加し、講師から、一つでも良い、奥さんと共通の趣味を持ち、夫婦間のコミュニケーションを、更に充実させること。

自分の居住地に何等かの形で貢献する事が必要。との言葉を受け、趣味として会社の仲間とゴルフに熱中していた私は、成る程・・・と。家内の趣味俳句(どうも苦手)、探鳥のうちの、探鳥会に参加することにしました。

当時既に、「野鳥の会千葉県支部幹事」を拝命していた家内は、喜んでくれました。幸いな事に、近くに手賀沼、八津干拓、印旛沼、三番瀬などのバードウォッチングフィールドも多く、家内先生の指導の元、双眼鏡、望遠鏡の使い方から、森林の小鳥達、水辺の鴨、シギ、かもめ類、大空にはばたくワシ、鷹、などの猛禽類の名前、なき声、大きさ、羽色の特徴などを学び、関東各県はもとより、北海道から西表島、石垣島など野鳥を追っかけている昨今です。

数年前、日本のシンボル鳥とも言えるタンチョウ鶴の、探鳥会に同行した家内の感想文を掲載させていただきます。

二月、厳寒の北海道だからこそ、この大地を訪れたい。殊にわが国最大の釧路湿原は、心が洗われる探鳥地である。日の出前に、タンチョウのねぐらである鶴居村の川に掛かる音羽橋に着く。体感気温は-25度位だろうか。双眼鏡、望遠鏡をセットして間もなく白々と夜が明けてきた。眼前に夢にまで見た光景が展開する。

タンチョウは全長140センチ、翼開長240センチ、頭頂の赤色が美しい。外敵から身を守る為、川のなかほどに数十羽いる。おおかたのタンチョウは足から体が冷え込むのを避け、片足を羽毛で包み、一本足で眠っている。その佇まいと川面から立ち昇る水蒸気が朝日に染まり、一面の銀世界はキラキ

ラと光る。これらの幻想的な壮観に、自然と涙が溢れ出て鼻水をすすりながら立ちすくんでいた。

移動してこちらは鶴居村、鶴居。伊藤タンチョウサンクチュアリ。長年給餌人を務めた伊藤氏よりこの地が提供されたので、その名がついているそうだ。

冬期間は給餌場の一つとして給餌がなされている。降りしきる雪の中、静ではなく、動のタンチョウを目の当りにする。

華麗な鶴の舞いは壮観そのもので、グルルと声がよく響く。愛を確かめあっているのだろうか、雄がコーと鳴けば雌がカッカッと応えていた。

ここまで。



同窓会会員の皆様へ

探鳥とは、

野鳥の生息に適した緑多き環境は

人間の体にも好影響。

野鳥を探しながら、ゆっくり3～4時間の歩行は体力の増強につながる。

そして何よりも、多くの探鳥仲間達と

の語り合いの中で、各自の経験談を聞き、現在の生活に生かす事が出来る。

是非、機会があったら、バードウォッチングを始めてはいかがでしょうか。

本校は、現在の千葉市中央区今井町(生実校舎)にあります。創立以来3回の移転をしています。昭和11年4月、千葉市立千葉工業学校(応用化学科1学科)として、千葉市港町(港町校舎)に創立しました。しかし、13年5月に校舎が焼失したため、14年4月千葉市花園町(花園校舎)に移転します。そして、昭和20年7月7日未明の空襲により校舎を焼失します。昭和21年1月、千葉郡津田沼町に移転します。昭和42年4月、千葉工業を千葉市内にということで現在のところに来たわけです。

「千葉工業歴代の校長について」は千葉工業同窓会東葛支部会報に第14代校長永峯清秀先生が初代井口校長から13代渡辺校長までの校長先生方の偉大さ、ご功績、お人柄について書かれ

ました。その後、その文章を見られた方々からのご意見により、同窓会本部の会報に転載し広く同窓生の皆様に読んでいただくことになり、23年3月発行の「千葉工業同窓会報(第22号)」に掲載されました。

その続編をどなたか書いてほしいとの依頼が、永峯先生からあり、教諭、教頭、校長と13年勤めた経験のある松本におはちが回ってきました。私は永峯先生ほど歴代の校長先生を存じ上げていないのですが、千葉工業に教員として赴任した平成4年以降の校長先生には大変お世話になりましたので、私の知るところを記して役目を果たしたいと存じます。もちろん、思い違いや不明な点等多々あるかと思いますが、ご指導、ご叱責をよろしくお願い申し上げます。

14. 14代校長 永峯 清秀(平成10年4月~平成13年3月)昭和16年3月生まれ 樺太庁豊原市(現ロシア・サハリン)出身

千葉第一高校卒、茨城大学工学部電気工学科昭和40年3月卒。教員になられてから、千葉大学工学研究科修士課程修了。

民間の会社にお勤めの後、千葉県の教員となり、千葉工業高校には教諭として昭和43年4月から16年間、教頭として平成元年4月から、校長として平成10年4月から3年間ご勤務されました。

私が教諭として、千葉工業に転勤する前の教頭です。赴任する前の3月に、事前に校務分掌の希望を聞かれたとき、「部活については、私が決めるので、希望は出さないように」と言われました。その結果、ハーモニカも吹けない私は「吹奏楽部」の顧問となりました。第3顧問でしたから、生徒には直接は被害はなかったのではとしました。

もともと、私は葛南工業高校(現市川工業高校定時制)が初任で、15年間勤務しました。そのとき、昭

和61年から平成元年3月まで教頭先生でおりまして、たいへんお世話になりました。

そして、平成10年4月から13年3月までの3年間、千葉工業高校の校長でおられるときに、私は電子機械科の教員で、総務部に所属していました。京葉工業高校の校長先生からの転任でしたが、転勤前の3月に、本校の4月以降の計画があり、たとえば、会議室の職員の座席は自由席でしたが、指定席にするために座席表を指示されました。

先生はご退職後も、松戸市にある専門学校の校長をされ、私が船橋豊富高校に勤務していたとき、ちよくちよく学校に来られ、様々なご教示をしていただきました。

先生は、今でもことあるごとに相談に乗っていただいております。いわば千葉工業高校の生き字引と言ってよい存在です。

15. 15代校長 須之内 義昭(平成13年4月~平成15年3月)昭和17年10月生まれ 東京都世田谷区出身

麻布高校卒、千葉工業大学工学部電子工学科昭和42年3月卒。

民間の会社にお勤めの後、千葉県の教員となり、

東総工業高校、茂原工業高校を歴任後、平成2年千葉県総合教育センターにて研修員、研究指導主事、平成4年県教委指導課産業教育係長兼指導主

事、課長補佐兼産業教育係長、課長補佐兼主任指導主事、平成8年東総工業高校校長、平成10年京葉工業高校校長、そして平成13年千葉工業高校校長。

先生は、平成15年度からの新しい教育課程についてご検討され、作成されました。現在の美術と音楽の選択や進学と専攻の2つのコースを2年次から実施することが決まりました。また、千葉県工業教育研究会の大改革にも取り組まれ、組織のスリム化を行いました。

16. 16代校長 青木 博一(平成15年4月～平成17年3月)昭和19年12月生まれ 千葉県長生郡長柄町出身

長生高校卒、千葉工業大学工学部機械工学科昭和42年3月卒。

大学の助手、民間の会社にお勤めの後、千葉県の教員となり、茂原工業高校、千葉工業高校を歴任後、平成5年から教頭として市川工業高校、千葉工業高校、京葉工業高校、そして校長として平成12年葛南工業高校(現市川工業高校定時制)、平成15年千葉工業高校。

先生は、私が平成4年に電子機械科の職員として赴任してきたとき、電子機械科の職員で、総務部長をされていました。その前は、電子機械科の科長をされており、本校の機械科を「電子機械科」に転科

先生が校長先生としていらっしゃるときに、私を教頭にいただいた恩人です。

先生は、ご退職後も千葉県の工業高校のためにコーディネートをしておられます。一つは文部科学省と経済産業省の合同事業「ものづくり人材育成事業」に千葉県の工業高校が指定となり、民間企業と工業高校との間を取り持つコーディネートのお仕事をしていました。また、昨年より「ちばぎん総研」で工業高校と技術専門校との橋渡しのお仕事をされています。千葉県の工業系高校にとって大切な方です。

するときの責任者でした。たいへんご苦勞をされ、見事数億円の事業を成し遂げられました。

また、私が教頭で葛南工業高校に赴任したときには、校長先生として同校にいらっしゃいました。教頭のあるべき姿を教えてくださいました。ありがとうございました。

先生は、公私の別をはっきりさせるとともに、教員に対する面倒をよく見ておられました。特に、工業高校の先生ばかりでなく、葛南工業高校定時制の校長の時は、県内の定時制教頭にたいへん厚い思いを寄せていただき、当時の教頭にたいへん慕われていました。

17. 17代校長 宮越 博文(平成17年4月～平成19年3月) 昭和21年8月生まれ 新潟県上越市出身

新潟県立高田工業高校卒、日本大学理工学部土木工学科昭和45年卒。教員になられてから、日本大学理工学研究科修士課程修了。

大学卒業後は建設省の技官等をされたのち、昭和50年千葉県の教員となり、茂原工業高校等を歴任後、教頭として葛南工業高校、茂原工業高校、校長として千葉大宮高校ののち平成17年千葉工業高校。

先生は、私が葛南工業高校の教頭で赴任したときの前任の教頭先生でした。葛南の教頭時代は、家が外房の睦沢町ということもあって、学校の近くに

アパートを借りて勤務していたと聞きます。

また、千葉工業に私が教頭で戻ったときの校長でもありました。その年に70周年記念式典があり、校長の指導のもと、同窓会等の御支援をいただき、そのときの教員と生徒の協力により、すばらしい式典ができました。

さらに、本校のインターンシップについて、県の指定を受け、ピーク時には130名以上の生徒が企業にお世話になりました。インターンシップの導入とその発展に貢献されました。

18. 18代校長 関谷 守(平成19年4月～平成21年3月)昭和24年1月生まれ 千葉県山武郡大網白里町出身

長生高校卒、順天堂大学体育学部体育学科昭和46年卒。

教諭として、長生高校、土気高校を歴任後、平成8年県教育庁生涯学習部体育課指導主事、学校体

育係長、平成11年一宮商業高校教頭、生涯学習部体育課主幹、平成16年市立船橋高校校長、そして平成19年千葉工業高校校長。

関谷先生は、長生高校のご出身で、Qちゃん(高橋尚子)を育てた小出監督のもとで、高校時代陸上競技の5000メートルで全国優勝しました。また大学時代は順天堂大学で箱根駅伝に2回出場しました。

先生が本校に赴任されてきたとき、私は教頭でしたが、「小出監督に本校生徒向けの講演をお願いしようと思うがどうだろうか」と聞かれました。「是非お願いします。生徒はたいへん喜ぶと思います」と応えた覚えがあります。すると、その場で小出監督に電話をされました。創立記念講演会は例年5月の連休中

ですが、その期間は秋田県で合宿中とのことでしたので、別の時期になりました。9月に行われた講演会には、本校生徒・職員ばかりでなく、千工会・同窓会、保護者、地域の方々など多くの方々がお見えになりました。また、専門が体育と言うこともあり、部活を通して人間形成に力を入れられ、工業系の部活にも深い理解を示されました。現在全国レベルの活躍をしている礎を築いていただきました。さらに、ベトナム・ハノイ工科短期大学との姉妹校交流の締結、生徒会館の改修なども忘れることができません。

先生は、私を校長に出してくれた恩人でもあります。

19. 19代校長 天野 角男(平成21年4月～平成23年3月)昭和25年10月生まれ 山梨県大月市出身

山梨県立都留高校卒、東洋大学工学部土木工学科卒、同大学院工学研究科土木工学専攻昭和51年修了

教諭として昭和51年京葉工業高校、昭和55年茂原工業高校、昭和58年京葉工業高校、教頭として平成12年東総工業高校、平成14年清水高校、校長として平成19年市川工業高校、そして平成21年千葉工業高校。

天野先生は、お住まいが千葉市にあった教頭時代は、東総工業高校で2年、清水高校で5年勤務されました。遠距離通勤でご苦労されたと聞いております。

先生は本校に校長として赴任する前の、市川工業高校時代から千葉県の進路指導部会の会長をさ

れるとともに、関東地区の進路指導研究会の会長と全国の副会長を3年間され、全国や関東地区の進路指導の発展に貢献されました。昨年は、ハノイ工科短期大学のビン学長を本校に迎え、盛大な歓迎会を催したと聞いています。

また、本校においては、事務職員の不祥事等の処理に奔走されました。お疲れ様でした。

私が本校に校長として赴任してから、全国の理事としての引き継ぎを兼ねて全国工業高等学校長協会の本部がある「工業教育会館(飯田橋)」に案内していただきました。そして、関係の全国の役員の校長先生に紹介をし、スムーズな移行をさせていただきました。

高尾山ハイキングに参加して

東葛支部顧問 (26C) 立崎 作次

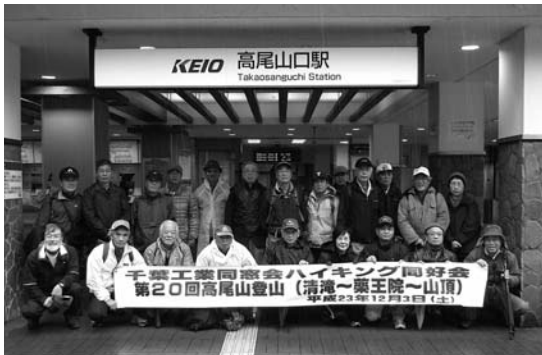
昨年12月3日(土)千葉工業高校同窓会本部ハイキング同好会主催(高尾山ハイキング)に22名(当支部4名)の仲間達と参加しました。生憎の雨、朝発生の地震のためバスが遅れ、小生のバス乗り場、JR京葉線(海浜幕張)に7時00分の約束の時間にもバスが到着せず、不安になっている所へ、市原市支部の山田さんが現れバスの遅れの事情を聞かされ一安心。

バスは予定より15分遅れにて到着、バスに乗り込み、バスの中央の席に当支部の山田さんが居り、隣の席に座る事が出来て一安心。

バスが高尾山に向かう途中も雨が降り続き、晴れていれば富士山が良く見えるところも本日は、雨、本当残念。

車窓から、そんな事を考えながら、バスは無事に高尾山駅前に到着、先に直行していた東葛支

部3名(木間さん、土屋さん、斉藤さん)と合流し雨の中での記念撮影(本文中の写真)を行い、登山グループとケーブルカーグループに別れ頂上をめざしました。



小生は登山グループに入り、事前に渡されていたコースガイドによって歩きだしました。途中急な所は雨が滝のように流れて来て歩くのに苦労しました。ほぼ中間地点迄登った地点で、山登り、ハイキング参加して、こんな早くバテタ経験がなく、次第に登山グループのラストとなり懸命に歩く様な状態は、山歩きに自信を持っていた者にとって極めて寂しく、ショツキングで歳(今年傘寿)なのか考える

と逆にファイトが沸き一生懸命歩き遂に頂上に着き感無量でした。

頂上の寺院を鑑賞している時、一瞬雨が止み雲の上に日が射してきました。僅かな時間であったが都心ビル、スカイツリー、東京タワー、遙か先の江ノ島迄見える事が出来、頂上に居合わせた登山者全員で大声を上げ、この時ばかりは、登山中の弱気等も吹き飛んで頂上へ辿り着いた充実感に沸きました。

頂上の休憩所にてハイキング参加者と持参した昼飯や飲み物頂き、体にエネルギーを充電し、一息ついて下山に向かいました。下山時には雨が止みましたが、曇り空で眺望は望めず、ひたすら足を滑らさない様に注意深く下山し、最後の下山者は私と数人の方でした。

帰りのバスの中では幹事さんの心遣いにより食物が配られ母校の校歌等を合唱し、さながら支部総会思い出します。

高尾山のハイキングは雨の一日で終わりましたが、参加者全員楽しいハイキング過ごす事が出来終点の終点の海浜幕張駅でお別れました。

同窓会東葛支部会計就任あいさつ

M34 土屋 孝夫

平成23年6月12日、東葛支部第13回総会が我孫子鈴木屋本店で開催され、三代目会計担当の拜命を受け就任いたしました。振り返りますと東葛支部には2003年4月に同期の坂巻氏(現在副支部長)から勧誘を受け、県外会員として入会いたしました。

早いもので8年間一会員として皆様と一緒に、東葛支部及び本部等の行事に参加いたしまして楽しく過ごさせていただいております。

ちまたの風評によりますと、初代は組織の確立のため寝食を忘れて職務に励む、二代目は初代のその姿を見ているので、組織の拡大並びに安定を図るため更に努力を重ねるとのことです。そして三代目が問題と言われます。方や国が財団法人の見直しで千工会の今後の行方が不透明であ

ることにより、今まで千工会から助成金を頂いておりましたが、平成24年度からはこの助成金が無くなる状況になってまいりました。また、新会員の増加も中々進まず、高齢となった会員の方から脱会の申し入れ等もあり、支部の財源に大きな影響が出てくるものと想定されます。会員皆様方のお力をお借りしながら、微力ではありますが精一杯の努力をしてみたいと思っていますので、どうぞよろしく願いいたします。

次に私が居住している現在の町を紹介して見たいと思います。

わが町溝口について

私の現在居住地は、川崎市高津区溝口と言う所です。

古く江戸時代から宿場町として、また「大山詣」の拠点として栄えてきた溝口。1997年に駅前再開発の目玉としてNOCTYビルが完成し、ショッピングスポットとなってきてますます便利になってきました。

溝口の由来

江戸時代より前、溝口を含む一帯は武蔵国橋樹郡と呼ばれていた。かつて近隣の住民は用水を掘ったが、この水路が溝のように狭かった。多摩丘陵から流れてくる溝水路がある場所、すなわち「溝」の入り口であることから、江戸時代には溝ノ口村という地名が誕生し、現在までその地名は永々と伝わっている。

その一方江戸時代や明治時代から続く商家も残されていて、新旧入り混じった不思議な情緒が漂っている。また多摩川を初めとした自然に恵まれた土地で、住みたい街としても人気上昇中である。

溝口の歴史

東海道が開かれる以前は、江戸赤坂門から足柄峠を経て駿河国沼津宿までを結ぶ足柄道が利用されていた。この足柄道と府中街道が交差する場所に溝口集落が出来た。江戸時代になると足柄道は矢倉沢往還として整備され、東海道と甲州街道の間を通る脇道(江戸時代の五街道以外の主要な街道)として発展していく。寛永9年(1669)には、溝ノ口村が矢倉沢往還の宿駅となった。江戸時代中期には、大山阿夫利神社への参拝旅行「大山詣」へ出かける道として利用されるようになり、このころから「大山道」「大山街道」として有名になった。厚木方面から江戸方面への荷物の中継点となるなど、商業および物流の中継地点としても発展していった。

鉄道開通と近代化

1927年3月には、南部鉄道(現在のJR南武線)が開業、「武蔵溝ノ口駅」が誕生した。同年7

月には玉川電気鉄道溝ノ口線(現在の東急田園都市線)も開業し、それまでは街道沿いに発展してきた商業地が、駅前に移り始め駅前商店街が出来た。

再開発までの道のり

江戸時代から栄えてきた溝口だが、戦後はなかなか開発が進まなかった。

東急田園都市線の「溝の口駅」～「長津田駅」間が開通したのは昭和41年、溝の口駅周辺には戦後の闇市の面影が色濃く残る西口商店街があり、庶民に愛されていたが、2007年の火災によりその大半が焼失、今でも当時を彷彿させる風景が一部残っている。

急速に発展した駅前

1989年には、国内初の都市型サイエンスパーク、通称「KSP」が誕生。大企業の研究開発部門が多数入居している「高度集積研究開発施設」として注目を浴び、世界に発信している。さらに1997年再開発ビル「NOCTY」が誕生すると、溝口の街は劇的な変貌を遂げていくことになった。1998年にはJR「武蔵溝ノ口駅」の改装も行われ、鉄道を跨いで南北の自由通路が完成し駅周辺の人の流れ、使いやすさ飛躍的に向上した。

増え続ける人口

現在の「武蔵溝ノ口駅」「溝の口駅」の乗降客は1日約26万人、単身者が横浜市の1.5倍という川崎市の中でも、特に物価の安さ、人情の豊かさで人気のあるこの街は、新しい息吹と共に新旧の世代が歴史と伝統を守りつつ共存している。(これまでの記事はJ&jインフォメーションから抜粋した)

怪談 三つ名の駅の階段

読売新聞地域版に「かながわ駅めぐり」の記事に溝口のことが掲載された。

記事によると駅前を囲む中間デッキ(キラリデッ

キといっている)を乗降客が行き交う。上り階段の先はJR「武蔵溝ノ口駅」で階段を下れば東急の「溝の口駅」。ちなみに両駅に接する川崎市バスの停留所の名は「溝口駅前」表記上(「ノ」や「の」がない)は存在しない駅の「駅前」になっている。

上れば「ノ」 下れば「の」 住所には「なし」

バス路線が出来たのは昭和50年代で、住所表記を基準に名付けたようだ。一方「武蔵溝ノ口駅」の開業は「溝口」制定より早い昭和27年3月のことで当時一般的だった表記をそのまま採用した。JR東日本横浜支社によると、すでに兵庫県に「溝口」という駅があり、業務連絡などの際に混乱しないよう川崎を含む古名「武蔵」を頭に付けたとみられる。その4ヶ月後、東急の前身玉川電気鉄道も「溝ノ口駅」を開業する。東急は昭和41年駅名を親しみやすくしようと、カタカナとひらがなが混在していた表記をひらがなに統一。同駅も「溝の口」に

なった。さらに住所はどちらも「溝口」と、同じ「みぞのくち」なのに表記がばらばらだ。なんでこうもややこしくなったのか。

「溝口」の表記について、昔からの呼び名からきた「通称地名」と、役所が決めた「行政地名」とが乖離している典型である。

「みぞのくち」の地名は14世紀の文献にも登場し、時代によって「溝ノ口」や「溝の口」時には「溝之口」とも記された。明治以降「溝ノ口」が主流だったが、あえて「溝口」を作ったのは表記の簡略化が目的の一つと見られる。以上の説明記事を繰り返し読んでも転居後30数年この地に住んでいるが、小生にとっては、「なんでだろう」の疑問は解決せず、先祖代々にわたり言い伝えられ親しまれてきた地名はなかなか統一されない、世の中の不思議さを思わずにはいられない。

72才、今、私がやっていること

33C 鎌形 武久

1. スーパー紙とんぼの作品や教材作り、月に約1,000機、年間1万機以上。
2. スーパー竹とんぼの作品や教材作り、月に約100機、年間1千機以上。
3. 卓球、2つのクラブで週に2～3回の練習、月8回～12回、年間100回以上。
4. 紙とんぼの指導者講習会及び一般と親子の紙とんぼ教室、月約1回、年間12回。
5. 紙とんぼの指導や各種イベントへの参加、4と合わせて月7～8回、年間100回弱。
6. 紙とんぼや竹とんぼの改良やアイデア作品開発、月に1～2作品、年間15～20作品。
7. 家の庭での果物作り 柿、あんず、すもも、びわ、梅、さくらんぼ、ぶどう、ザクロ、いちじく、ナツメ、キュウイ、各種柑橘類等。
8. 畑での野菜作り トマト、キュウリ、なす、トウモロコシ、ピーマン、シトウ、唐辛子、モロヘイヤ、インゲン、三尺ささげ、ニガウリ、シソノ葉、小松菜、ほうれん草、チンゲンサイ、春菊等。
9. 「日本ファミリーツリーの会」の会運営、年間、5～6回。



毎日、この様な事しています、これからも、いろんな事して多くの人と関わり合いを持ち、楽しい毎を送りたいと思います。

かわいい二人の子役、「鈴木福ちゃん」と「芦田愛菜ちゃん」で大ブレイクした、TBSの心温まるドラマ「マルモのおきて」のなかで、世良公則が開いている居酒屋「KUJIRA」…。

「安部サダオ」、「福ちゃん」、「愛菜ちゃん」の三人は、この店の二階を借りて住んでいると言う設定です。

インターネットで調べたら、このロケ地が「永代橋」の近くにある事がわかったので、東葛支部の新年会へ行く前に、大網の家を早く出て寄り道をしました。



その場所は、門前仲町から茅場町方面へ歩き、永代橋の袂を右へ曲がって暫く行くと右側にあり、「コスガ」と言う会社の建物でした。

この入り口に「KUJIRA」の暖簾を掛けて、ロケに使っていた訳です。

もと来た道を帰るのはつまらないので、首都高速6号線の下に架かる「隅田川大橋」を渡って小伝馬町の方へ歩きました。

橋からは、スカイツリーや永代橋が見え、中々のロケーションでした。

夕方だといいい写真が撮れそうです。

新年会開催

M44 富田 博

恒例の東葛支部の新年会と定例会議を兼ねた宴が都内、上野：「香家」で行われました。

当日は、東葛支部の範囲である市川、浦安、松戸、柏、我孫子、野田、流山のほか、県外の方が集まれるように毎年新年会は千葉を離れて都内で行っております。

都内、上野駅にも近く、予約時間ギリギリまで宴は盛り上がり、写真を見てお分かりのように、楽しく美味しい物を食べ、交流を深め、宴は予定の時間ギリギリまで盛り上がりました。

二次会でカラオケに行く方、次のお店に行く方々と色々、楽しく親睦を深められました。



◆ 平 将門 (その6)

生き続ける将門

～ 近代における将門像の変遷 ～

〈明治の烈風〉

江戸時代から明治時代への変化は人々の心にも大きな変化をもたらした。

天皇の御世になった時代に、国家朝廷に弓引いた者とみなされた将門への風当たりは強かった。

〈神仏分離政策と神田神社の神祭問題〉

明治5年(1372)に明治政府の宗教行政担当機関の教部省が、神田神社の祭神平将門公に対して異議を申し立てた。

それに対して神田神社の本社の側の別殿に祭神平将門公を遷座することとした。

この祭神の問題は明治政府による(神仏分離政策)の流れの中にある。神仏分離政策は単に神と仏を分けるだけでなく、(頂点に宮中祭祀と伊勢神宮を置き中間に各地の、官、国幣社を配し、底辺に村々の産土社をすえ、国家的規模での神社祭祀の統一的体系に日本人の宗教生活の全体を編成し、帰属させるという神道国教体制が、その究極目標であった。)

つまり、その統一的体系に入らなければ、神も排斥される対象となりました。

慶応4年(明治元年)に(神仏判然令)の交布により、これを受けて、神田明神は社号を(神田神社)と改めた。そして、明治政府の宗教を管轄する部署は明治5年3月に教部省となり、その教部省から神田神社の祭神問題は出されるのである。

明治になっての神田神社の大きな変化としては、神職の問題がありました。

しかし、明治維新後、柴崎家は神田明神を去り、神職の世襲制禁止により、初代神代名臣祠

官、二代大崎昌庸祠官、三代に本居ひでかい祠官がその職にあたることになりました。

本居ひでかい祠官は、国学者本居宣長の曾孫で、天保五年に生まれ、紀州藩江戸古学館教授を務め、明治維新後神道の道に進む。

その後、東京女子高等師範学校教授、御歌所寄人、東京帝国大学講師、帝国学士院会員、文学博士となっています。

また、大正天皇が東宮の時に御用掛になっています。

本居派の総帥であった本居ひでかいを祠官として神田神社に送りこんだのは、いかに神田神社を重要視していたかがわかる人的采配でありました。

〈神田神社のいわれ〉

諸説ありますが一例として、延暦二年(1309)に時宗の真教上人が、江戸柴崎村の荒れ果てた将門の首塚を丁寧に従養し、付近の日輪寺を従養堂とした。

その傍らの社に将門の霊を祀り「神田明神」としたという。

その後何度か移転したが、御祭神平将門とする江戸の総鎮守として発展した。

神田の地名の起りは将門の「からだ」がなまって「かんだ」になったという説もあります。

(次号へ)

大利根博物館、
関宿城博物館より。



● 皆様の趣味や得意とするものをご連絡下さい ●

会員の皆様は、色々な趣味をお持ちだと思われていますが、比較的ポピュラーと思われるものについて、役員の中かで一応の担当者を決めてあります。会員の皆様のご趣味・得意

な分野・特技などを把握し、色々な行事や交流にお誘いしたいと考えています。趣味や得意な分野が一致した方は、それぞれの担当者までご連絡下さい。

- | | | | |
|----------------|-------|----------------------------|------------------|
| ● ゴルフ | 木間 英一 | 〒270-0002 松戸市平賀125-10 | TEL.047-343-0455 |
| ● ハイキング
釣 り | 木間 英一 | 〒270-0002 松戸市平賀125-10 | TEL.047-343-0455 |
| ● 囲碁・麻雀 | 高橋 健一 | 〒270-0157 流山市平和台5-400 | TEL.04-7159-9367 |
| ● スーパー
紙とんぼ | 鎌形 武久 | 〒270-2241 松戸市松戸新田21-3 | TEL.047-364-5084 |
| ● 茶 道 | 富田 博 | 〒272-0015 市川市鬼高3-12-39-516 | TEL.047-393-0850 |



今後の予定

東葛支部の予定

平成24年

- 4月4日(水)
支部会計監査(かつ美)
- 5月26日(土)
支部定例会議(高柳近隣C)
15:00~
- 6月10日(日)
第14回支部定期総会
(鈴木屋本店)13:00~
- 7月4日(水)
釣友会(浦安:吉野屋)
- 7月28日(土)
支部定例会議(高柳近隣C)
15:00~
- 9月22日(土)
支部定例会議(高柳近隣C)
15:00~

本部・他支部の予定

平成23年

- 4月7日(土) 本部主催ハイキング(栄町:房総むら)
- 4月8日(日) 外房支部定期総会
- 4月15日(日) 第27回同窓祭
- 4月17日(火) 第39回囲碁同好会
- 4月21日(土) 千葉市西支部定期総会
- 5月6日(日) 京葉支部定期総会
- 5月7日(月) 同窓会常任幹事会
- 5月13日(日) 同窓会幹事会(母校)
- 5月15日(火) 千葉3支部・外房支部チャリテーゴルフ大会
- 5月19日(土) 千葉市西支部麻雀大会(麻雀・大都)
- 5月20日(日) 市原支部定期総会
- 6月3日(土) 北総支部定期総会
- 6月17日(日) 千葉市東支部定期総会
- 7月8日(日) 千葉中支部定期総会

編 集 後 記

支部会報第23号をおとどけします。

3.11の東北地方震災が起こって一年、ガレキ処理も進んでいない状況、本来であれば政治主導で行う震災対策。本当に今の政治家に任せて良いのでしょうか、皆さん一人一人日本国民の責任ですね、人任せの政治家を選んだのは選挙の結果ですから。

さて、千葉工業同窓会定期総会、今年も南総支部から始まりました。外房支部、千葉西支部、

京葉支部、市原支部、北総支部、東葛支部、千葉東支部、千葉中支部と続きます。当東葛支部は6月10日(日曜)我孫子市・鈴木屋本店で開催されます。多数の出席をお願いします。

今回の特集は、千葉工業第14代 永峯先生から第19代 天野先生までの「歴代校長先生について」経歴やエピソード等を松本現校長先生にお願いしまして執筆していただきました。

M44 富田 博

新入会員募集と入会手続きについて

東葛支部では、会員を増やしてどんどん組織を大きくしていきたいと思っています。このため、役員の中に「会員増促進委員会」を作って活動しています。

会員の皆様の仲間で、会員資格のある方がいらっしゃいましたら、ぜひ入会を勧めて下さい。

1. 入会資格 千葉工業学校、千葉工業高校、および同校併設中学校の卒業生、ならびにかつて同校に在勤、在学していた方で支部長が認めた方。
東葛地域に居住している方及び千葉県外に居住している方、または出身が同地域の方、同地域に勤務されている方。
2. 会 費 年会費 3,000円
3. 入会手続 役員へ入会申込みされますと郵便振替用紙をお送りしますから、年会費3,000円を振込願います。

支部会報第24号の原稿募集

東葛支部会報第24号の原稿を募集します。

1. 発行予定 平成24年8月
2. 原稿締切 平成24年7月
3. 内 容 母校の思い出・恩師の思い出・私の職場・私の仕事・私の趣味・私の特技・旅日記・近況・クラス会模様・エッセイ・呼びかけ・イベント報告 等、何でも結構です。
4. 投稿方法 卒年科・ご氏名を記入の上、郵便・FAX(自動受信)・E-mailのいずれかでご投稿下さい。
5. 投稿先 編集委員長 坂巻 実 〒277-0921 柏市大津が丘2-4-1
TEL:04-7191-5927 E-mail:minoru.sakamaki@jcom.home.ne.jp
編集委員 土屋孝夫 〒213-0001 川崎市高津区溝口3-18-17
TEL:044-844-2767 E-mail:golf-t@tbn.t-com ne.jp
編集委員 富田 博 〒272-0015 市川市鬼高3-12-39-516
TEL:047-393-0850 E-mail:c-tomi@rr.em-net.ne.jp

東葛支部会報

第23号

発 行	平成24年5月1日
発 行 者	千葉工業同窓会 東葛支部
発行責任者	支 部 長 吉田勝彦
事 務 局	事 務 局 長 木間英一
編集責任者	編集委員長 坂巻 実